

## 27PE-am005

福岡大学病院におけるレジデントによる薬学生早期体験学習への取り組み(2)  
○上野 雅代<sup>1</sup>, 山本 知佳<sup>2,1</sup>, 鷺山 厚司<sup>1</sup>, 土倉 史香<sup>1</sup>, 湯田 朋子<sup>1</sup>, 有吉 紀子<sup>1</sup>,  
座間味 丈人<sup>1</sup>, 二神 幸次郎<sup>2,1</sup>(<sup>1</sup>福岡大病院薬, <sup>2</sup>福岡大薬)

【目的】福岡大学病院（以下、当院）では2006年4月から薬剤師レジデント制度を導入しており、現在第2期生がgeneral practice courseで学んでいる。一方、薬学部では6年制が開始され、薬学生の勉学のモチベーション向上のため、薬学部1年生に対して早期体験学習が行われている。今回、病院薬剤師業務の早期体験学習において、レジデントによる禁煙に対する意識向上を考慮した服薬指導のロールプレイを行ったので報告する。

【方法】平成19年度は2007年9月3日から7日までの5日間に福岡大学薬学部生93名を受け入れた。その中で薬学生33名を対象に禁煙指導実習を行った。薬学生は、薬剤師役として禁煙開始直後の模擬患者（第2期レジデント）に対し服薬指導の模擬体験を行った。ロールプレイ終了直後に薬学生に対しアンケート調査による自己評価を、また薬学生に対する評価を「説明態度」、「コミュニケーション」、「説明」の評価項目に関して第1期レジデントが行った。

【結果・考察】すべての薬学生が服薬指導を通じて、禁煙に対する意識が高まったと回答しており、また評価者からの「説明態度」に対する評価も高く、実際の学習への取り組む意欲が高いことを示していた。その一方で、「コミュニケーション」において傾聴および共感に対する評価が低く、薬学生の自己評価も低かった。しかしながら、多くの薬学生がコミュニケーションの必要性を感じており、約半数の薬学生がこの模擬体験をよい経験あるいは勉強になったと答えていた。今回、レジデントが禁煙という身近なテーマを題材に、薬学生の早期体験学習に取り組むことで、薬学生のコミュニケーション技術、薬物療法の知識等の基礎的能力学習の意欲向上に寄与できたものと考えられる。